

## 「授業力」をどう評価するか（Web立ち読み版）

教師の「授業力」を評価する目的は少なくとも二つある。第一に教師個々人の資質向上、第二に各学校の「授業力」の向上である。両者のうち、より短期的に達成が可能であり、また必要な目的は後者である。というのは、「授業力」は各校の教師集団の複合的な力であり、教師の資質を評価して適切な役割分担を行うことが、学校の「授業力」を維持するためには必須だからである。一方、教師個々人の資質としての「授業力」は、長時間かかっていつの間にか醸成される、その教師の人柄としか言いようのない性格を帯びている。いかに教師個人の「授業力」を評価しようとも、そして各教師自身がいかに誠実にその評価に応えようと努めても、思い通りの「授業力」が形成されるものではない。個人の「授業力」の評価は現職教育という観点から試み続けられるべき事柄であるが、評価の効果は限定的かつ緩慢にしか現れないことはあらかじめ見越しておく必要がある。

Copyright (c) 2003 YAMADA Masahiko All rights reserved.

当ページの内容の複製、改変、転載は、著作権法に定められた例外を除いて、法律で禁じられています。